

## ■神武東征(東遷)は、事実か、虚構か？

磐余彦(伊波礼)は、饒速日東征の足跡を辿り、大和へ東遷。



Z37. 磐余彦尊(神武天皇) 東征経路

	書紀(古事記)	年数[復元]	関係する場所(豪族)
①	高千穂峰 [高原]		⇒(幼少期)霧島～都城「狭野命」
②	日向(美々津)	(45 歳)	妃:吾平津姫「隼人族」 ⇒(大伴氏)[出立]
③	菟狭(宇沙)		⇒豊国宇沙都彦:「伊都御魂」(向津姫)
④	岡水門(岡田宮)	半年(1年)	⇒筑紫国:「AD57 漢委奴国王」(安曇氏)
⑤	埃宮(多祁理宮)	半年(7年)	⇒安芸国:行の宮(多家)
⑥	高島宮(高嶋宮)	3年(8年)	⇒吉備国:行の宮(妃:興世姫)
⑦	明石(速吸門)	(49 歳)	⇒明石海峡(亀舟):倭宿禰(海部氏)
⑧	浪速渡(血沼海)		⇒河内国:草香(日下)で退却(物部氏)
⑨	雄水門(男水門)		⇒紀国:(竈山)五瀬命死(紀伊氏)
⑩	熊野(熊野村)		⇒高倉下:「布都御魂剣」(尾張氏)
⑪	菟田(宇陀)	(50 歳)	⇒八咫鳥:長脛彦を成敗(久米氏)
⑫	檀原宮 [AD61]	[52 歳]	妃:踏鞴五十鈴姫(三輪氏) ⇒[即位]

※古事記は日本書紀より、東征が9年長くなる。(注)速吸門は、書紀では豊予海峡。

※磐余彦(伊波礼)の生年は、書紀西暦 10 年、古事記 1 年(紀元元年)となる。

◆「現人神」

磐余彦と神との唯一の出会い、熊野で雷に打たれて、仮死状態となった時である。

【この時、天照大神(伊都御魂)と、高木神(高皇産靈尊)が降りてきた。  
 相談を受けた素戔嗚は、建御雷神(建布都)に、高倉下(素戔嗚の孫)  
 の夢に出て、布都御魂劍(素戔嗚の劍)を、倉の下に置くよう告げた。  
 翌日、熊野高倉下は、その劍を磐余彦に手渡して、磐余彦は回復した。】

(注)歴代天皇は、即位の儀式でこれと同じ場面を再現し、「現人神」となる。

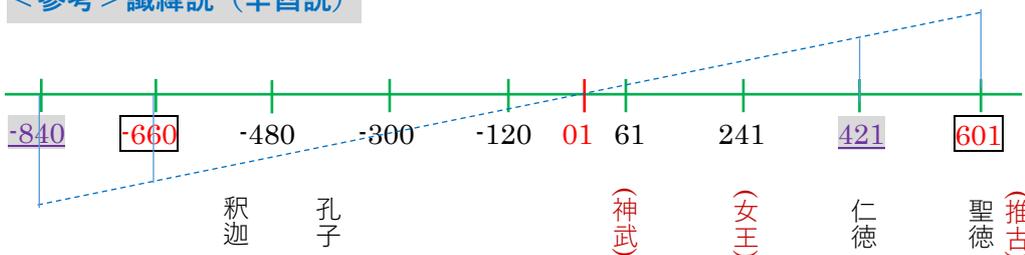
◆神武東征の復元年代

書紀	3倍	復元	干	支	年齢	日本書紀	古事記
BC720	BC840	AD01	辛	酉		[紀元元年]	(01 誕生)
~	~	~	~	~	~		
BC711	BC813	AD10	庚	午	1	(誕生)	
~	~	~	~	~	~		
BC697	BC771	AD24	甲	申	15	立太子	
~	~	~	~	~	~		(45 出立)
BC667	BC681	AD54	甲	寅	45	10 月出立 → 豊国	
BC666	BC678	AD55	乙	卯	46	3 月吉備	
BC665	BC675	AD56	丙	辰	47	(吉備)	
BC664	BC672	AD57	丁	巳	48	(吉備)	
BC663	BC669	AD58	戊	午	49	2 月吉備 → 難波	
BC662	BC666	AD59	己	未	50	3 月宇陀 → 橿原	
BC661	BC663	AD60	庚	申	51		
BC660	BC660	AD61	辛	酉	52	1 月即位	(61 即位)

(注) 書紀復元では、西暦 1 年 1 月 1 日を、660 年+6 年 66 日遡る。

(古事記では、伊波礼。伊:1 壺、礼:0 始まりで、生年を紀元元年:1=0 とした。)

<参考> 識緯説 (辛酉説)



※《歴史の大転換期》60年(王朝交代) \* 21回(元) = 1260年

識緯説では、大きな革命が 21 回目の辛酉の年に来るといふ考え方。

## ■果たして、1370年間、阿波が古都であったのか？(⇒阿波古都説)

阿波説：(紀元前)660年～平城京(遷都)710年=1370年

京都：長岡京 784年～ 東京(奠都)1868年=1174年

※「王年代記」では、紀元前の古都は、日向(西都原)である。

※「阿波説」では、「神武東征」(日向～大和)は、成り立たない。

<参考> 記紀では、阿波が古都であったことは一度もない。

⇒ 難波京、飛鳥京、大津京、藤原京、平城京 の順に遷都。

難波京：武内宿禰一族の古墳は、難波～飛鳥の竹内街道にある。

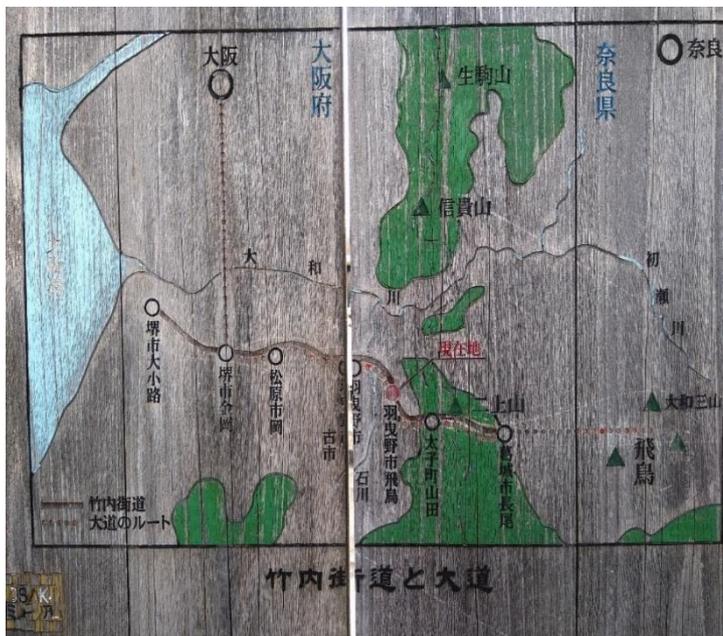
飛鳥京：聖徳太子の霊廟は、「近つ飛鳥」上の太子町(叡福寺)にある。

大津京：白村江の戦いに敗れた中大兄皇子は、近江大津へ逃げた。

藤原京：藤原氏は、豪族(物部氏)を潰すために遷都した。

※「阿波古都説」では、日向の古都および奈良の古都と、完全に矛盾する。

竹内街道(上の太子駅の案内板)



古都遷都(書紀年代)



(注) 平安京は、桓武天皇・和氣清麻呂・空海の3者によって、作られた。

## ■実際は、248年:阿波 → 奈良へ遷都(奠都)か？

開化天皇は、「文明開化」の意味。(⇒古代の維新か)

「9代開化天皇(若倭)は、饒速日東征後の東の和国(ワコク)と、女王天豊姫の倭国(ヤマト)を統合して、大和国(=大倭)とした。」

その後、別系統の崇神に譲位した。

※倭国の豊姫は、王位を天皇(崇神)に譲ったと考えられる。

奈良：率川の「笹ユリ祭」は、神武妃(伊須気依姫：御歳姫)の子守祭り。

奈良の中心部、率川(いさがわ)神社は事代主(夷子)を阿波神社から勧請した。

(参考) 明治維新

孝明天皇は南朝の系統(大室寅之祐)に譲位した。(⇒落合莞爾説)

⇒ 吉田松陰、高杉晋作、西郷隆盛(南洲)も南朝方。

⇒ 皇居には、南朝方の楠木正成の銅像がある。

明治維新の前に、皇女和宮は、幕府将軍家(家茂)に降嫁した。

## ■崇神天皇は、奈良で初国御肇(ハツクニシラス)か？

「朝鮮史記」では、220年頃、『神武(崇神)』は伽耶から美馬に移って来た。

※御真木家の御真津姫に婿入り。その後、開化の養子となった。

崇神(御真木入彦)が、阿波に留っていても、豪族の支援を得られない。

「248年、崇神は大和(奈良)に移動後、有力豪族(海部氏:大海宿禰)

と姻戚関係を結び、天皇を中心とする統治形態(天皇親政)に変えた。」

⇒初国御肇「ハツクニシラス」

※「神武」と「崇神」は、混同しがちだが、年代と出身が異なる。

初代「神武」と10代「崇神」は、淡海三船が2文字を選定した。

神武 ⇒ 「神・倭\_武(カム・タケル)」は、隼人出身者に相応しい。

崇神 ⇒ 「山・宗\_神(アガメルカミ)」は、美馬出身者に相応しい。

従って、朝鮮史紀にある諡号を、付け替えたと思われる。

## ■崇神以前の天皇家と阿波国は、対立関係にあったのか？

※神武天皇は、なぜ、四国を經由しなかったのか？

阿波(剣山)は、神事・祭祀の聖地であって、政治・軍事には、不向き。

※記紀では、素戔嗚は、四国(高天原)から追放処分(出入禁止)状態にある。

大和開祖:饒速日から、天の日嗣として後継指名を受けた「狭野尊」は、

四国(高天原)を避けて、饒速日東征に従った諸豪族に挨拶回りをした。

※神武は大和入りした後、饒速日の末子:御歳姫に婿入りしている。

饒速日と戦ってはいない(饒速日は既に故人)。長脛彦と戦った。

※第9代開化まで、四国・九州と融和できなかった？

「倭国大乱」女王:「(大靈女命 : 祭祀王(ヒミコ))」

6代孝安	: (大)倭国押人命	(クニオシヒト)
7代孝靈の妃	: (大)倭国阿礼姫	(クニアレヒメ)
8代孝元	: (大)倭国玖琉命	(クニクルミコト)
9代開花	: 若倭根子彦命	(ワカヤマトネコ)
10代崇神	: 「初国御肇天皇」	(ハツクニシラス)

(注)勸注系図では、5代孝昭～8代孝元まで、「大倭」でなく、「倭」と表記されている。「倭」は、九州～四国迄を指すから、阿波の出身または東の「倭」ではないだろうか。

※日巫女(ひみこ)を倭の「女王」としたのは、内乱が収まらないため、暫定的に阿波(ヤマト)の巫術師である巫女を倭王としたと考えられる。

(推定存命期間: from 179 to 247 69歳位。)

(注)当時の天皇の権威は、まだ固まっていなかったのではないか。

皇位と王位を、天照の直系とするか、素戔嗚の直系とするかによって、

「天つ神」と「国つ神」の権威は変わるだろう。

また、末子相続か、長子相続かによっても、皇統譜は、変わるだろう。

(注)魏志倭人伝は、「東の倭」については触れていないから、「倭国大乱」は、瀬戸内海の覇権争いと考えるべきだ。